

しんがく 伸楽だより

第7号
2013年10月31日発行
伸楽ひふみ学園
〒921-8801
石川県野々市市御経塚5-54
(076) 227-9878
<http://jaa-nkssc.main.jp/>

しんがく 「伸楽」とは…

押しつけられたり、しなければならぬからいやいや学んだりするのではなく、一人ひとりが学ぶ意味を見つけ出し、喜びの中で輝き成長する教育、それを目指す考え方です。伸楽ひふみ学園はこの伸楽の考え方に基づいた、小中学生のひふみ塾・中中部・高校（通信制課程）の学習支援センター・大学（通信制課程）のサテライトカレッジ・就労支援のためのNPO団体を併せ持つ総合学園です。

カフェミーティングに来てみませんか～？



これまで第1土曜日に実施してきたカフェミーティングですが、参加人数も増え、また、年代も様々になってきたことを踏まえて、9月より月2回実施しています。第1月曜日は伸楽ひふみ学園に通う生徒の保護者の方を対象に、第3土曜日（または第4土曜日）はその他のひきこもりや不登校の家族を抱える方を対象に開いています。

子育て・進学・就職・自立など、世代によって求めている情報が異なり、年齢層を分けたことでそれぞれに対応した形になっています。

普段の様子のご共有や情報交換、または居場所として気軽に活用して下さい。

生徒たちの興味の扉を広げる、様々な取り組み

新学期を迎えた9月・10月は、いろいろ面白い授業が盛り沢山でした。

これまで毎月開いていたヨガ教室は、9月には男子生徒の参加率が高く、盛況でした。しかもこの回には指導をして下さる進藤先生のご厚意で、パキスタンのジュース（ココナッツミルクやローズ、ナッツなどがいろいろ入った甘くて不思議な味でした）を試飲させてもらうことが出来、職員を含めて貴重な体験となりました。

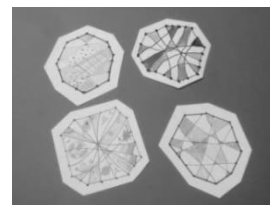


10月には、ハンドメイド講座やクリスタルボウル演奏、ヨガ教室といった定番の授業のほかに、カラー診断やアートプログラム、クリスタル曼荼羅なども行いました。

クリスタルボウルの演奏は耳で聞くというよりも振動を身体全体で感じるといったもので、みんな寝転がって心地よくなるのが出来る、リラックスタイムの時間です。10月のこの回ではあまりに気持ち良くなって演者がリラックスモードに入ったので、生徒や職員がかわるがわるクリスタルボウルの演奏に挑戦させてもらうことが出来ました。音を奏でる人によって、静かに弾く人、余韻を残して弾く人、恐る恐る弾く人と個性があり、それぞれに味があって、とても心地よい時間を共有できました。

カラー診断とは、人それぞれ個性があるように同じ「赤」でも明るい赤、ビビッドな赤、パステル調の赤とその人が一番映える（似合う）色があり、それを診断してくれる授業でした。洋服などを選ぶ際も、的確

な色選びをすることで表情が明るくなります。



アートプログラムでは独自の創作活動を行うことで、脳の活性化を促すことを目的としたアートワークです。みんながほぼ未経験という事で、まずは職員が経験しました。まずは真四角の厚紙の4つの角をそれぞれ切り落として八角形を作り、その内側1cmくらいのところをぐるっとペンで線を描いて出来上がった”枠”の線上に20個くらいの点を描きます。その点と点を線で結んで8角形の枠の中に出来たいろんな形の図形に、色鉛筆で感性の赴くままに色を塗ったり模様を描いたり、想像力をフルに活用してカラフルな図形に仕上げていきます。表現のひとつとして、自分で作品を作っていくプロセスを楽しんだり出来上がったものをお互いに見合っって認め合ったりと楽しい時間を共有できました。

思っていることがあってもなかなか言葉で表現出来ない、そんな時に活躍するのがクリスタル曼荼羅です。自分が思った通り何の制約も受けずにクリスタルを並べていき、その形によって心の奥底を読み取ってアドバイスすることが出来るというものです。生徒が心の奥で抱えていることを知ることで、より良い適切なアドバイスが出来るようになるわけですね。



始業式での一幕

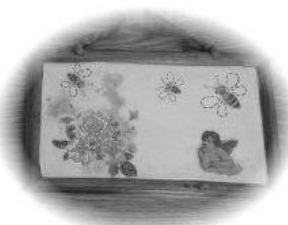
9月2日の始業式。長い長い夏休みを終え、教室には合計19名もの生徒たちが元気な顔を見せてくれました。その中には、今年の3月に卒業して新しい世界に飛び出していった“センパイ”達2名の姿も。

何かあるたびにこの教室に顔を出してくれたり、在学中に仲良くなった友達と卒業後も遊んだりとつながりを持ち続けてくれています。

始業式ではそんな彼らにここを卒業して今現在どのように過ごしているか、また、高校時代ここで過ごしてどうだったかといった事を話してもらいました。それは、後輩たちにとっていい刺激になったことでしょう！

そしてそんな先輩に触発されてか、在校生たちも夏休みの間の思い出を一人ひとり前に出て紹介してくれました。以前だったら恥ずかしがったり自己表現に苦手意識を持って遠慮したりすることが当たり前だったわけですが、「〇〇へ旅行に行った!」とか「こんな過ごし方をした!」とか一人ひとりが充実した夏休みを過ごしたことがよくわかる発表をしてくれました。

人は常に成長しています。そして、この教室も常に成長していている、そんなことを感じた始業式となりました。生徒たちに感謝です。



毎月定期的に授業の一環として取り組んでいるハンドメイド講座。最初は、生徒一人ひとりの興味を引き出して将来の仕事や趣味の活動などに繋がればいいなあという事でスタートしました。

そのハンドメイド講座は、2年前の東日本大震災を機に東北の被災地へ送るための支援物資作りとして紙ナプキンでデコパージュを行い、これまでにたくさんの物資を送らせていただいています。

そして現在、就労につながるためのその前段階として「実際販売できるくらいのクオリティの作品を作ろう」という話が出てきました。早速生徒が女性スタッフと「何を作る?」と話し合っているようです。

普段の生活圏外である店舗で、知らない人を相手に仕事をするアルバイトではまだハードルが高い生徒たちが通い慣れた場所で自分たちに出来る物を作り、それを販売することで対価を得られるという体験を通して物作りの楽しさとお金を得ることの楽しさを知ってもらおう、という試みです。少しずつ、少しずつ自信をつけていってもらって、将来は社会へ大きく旅立ってくれるといいなあと思います。



ハンドメイド講座の

その先



学級文庫を募集しています

伸楽ひふみ学園には実は漫画がたくさん置いてあります。塾の生徒や高校生が教室に来た時や勉強の合間などに頭をリラックス&リフレッシュするのに一役買っている大切な蔵書です。



もちろん、漫画以外の本もありますが、子どもたちには漫画の人气がどうしても高いです。

「漫画ばかりがある環境で、本当にちゃんと勉強できるの?」と不思議に思われるかも知れません。

でも子供たちは、「なぜ今勉強するの?」という事を伸楽ひふみ学園に入ってきた最初に理解して通ってきていますから、「勉強の時間」「リラックスの時間」を自分で決めて行動します。

自分で決めるという事で、そこに責任感が生じます。周りから言われるのではなく自分の責任感で行動するので、遊びっぱなしになることがないのです。

…という事を踏まえまして、現在伸楽ひふみ学園では子どもたちが読む学級文庫、特に漫画を募集しています。読み終わってもう何年も読まなくなった漫画がありましたら、是非ご提供いただけましたらありがたいです。

よろしくお願い致します。

子育てのワンポイントアドバイス その6

■名づけよりも大事なものは対処法

「Solitary Non-Employed Persons」(孤立無業者)の頭文字をとって新たに「SNEP」(スネップ)という新概念が生まれたそうです。

「20歳以上59歳以下の在学中を除く未婚者。就業していない。家族以外の人と2日連続で接していない」という人々のことだそうです。

昭和30年代生まれの子どもたちの世界には、テレビ文化が入ってきました。

引きこもり世代の始まりです。平成生まれの子どもたちには、DS→ネット→スマホとバーチャルな世界がどんどん入ってきています。

中国でも、ゲームに夢中になるあまりに引きこもりとなる人が増え、ネトゲ廃人という言葉が生まれました。

日本でも子どもたちのスマホ依存症が、問題視され始めています。

ただ、名前はつけますが、その問題をどう対処すればいいのかについては社会はノータッチなのです。テレビもゲームもスマホも企業利益優先なのでしょうね。

便利な道具も使い方次第では、人を傷つけてしまうのと同様に、人を育たなくしてしまいます。

家庭の中からはまず、ルール作りをしていくことが大事なのです。

子育てアドバイザー 笠松 ゆり

転校生が入ってきました。 佐藤公一

ここ最近、3名の転校生が入ってきました。それぞれが全日制の高校に通っていましたが、進級できなかったり不登校だったり、自信を失っていました。

しかし、伸楽ひふみ学園（以下、当学園）に入り、少しずつ変化していきました。

当学園では一人ひとりをとても尊重するので、こちら側（当学園側）のルールをまず話すのではなく、生徒側にルールを作ってもらるところから始めます。

先生はアドバイスするだけです。たとえ、その出来た時間割表が週一回の1時間だけしか登校しないようなものであっても尊重します。「素晴らしいね、ここから始めよう。」と笑顔で迎えます。

授業も一切黒板は使わない個別指導型なので、その人の学ぶスピードや学び方を尊重します。そうこうして数週間も立つと、「私」でいいんだと自信が芽生え、自然な笑顔が戻ってきます。

こうなってきたら、別稿に書きましたが、個別ソーシャルスキルが入っていきやすくなります。

その後、そのうちの2人の生徒はアルバイトも始めました。うち一人は発達障害（アスペルガー）もあり、私

達のソーシャルスキルをもってしても2度面接で落ちてしまいました。

こういう時は、本人は気持ちも落ち、「もうどこにも採用されないかも知れない」と言い出す始末。しかし、私たち学園側は、これもチャンスとして捉えます。

当学園では、ソーシャルスキルのほか、心理ワークと言って感情を思考（考え方）によってコントロールする指導も行っています。この心理ワークが、実践で使える大きなチャンスとしてとらえるのです。

君が望むことは何？との問いに、生徒はバイトに合格する事だという。よし！その思考（イメージも含め）を採用しよう。不安になったらそのイメージを視よう（思い出そう）。その生き活きとした感情で、ソーシャルスキルを使って、次もバイト面接トライしましょうよ、と背中を押してあげる。その後、3回目でその生徒は合格しましたよ。今は学校と両立して一生懸命アルバイトに取り組んでします。

最近、生まれて初めての給料をいただいたと喜んでいました。良かったですね。今度先生にも何かおごってよね（笑）。

アルバイトとソーシャルスキル

伸楽ひふみ学園（以下、当学園）は、一般の学校と違いアルバイトを学校として推進しています。それというのは、お金の大切さや責任力がつくこともありますが、それよりも何よりも生きたソーシャルスキルのトレーニングの場になるからです。

ソーシャルスキルとは、社会性のスキル（技術）のことです。もっと簡単に言うと、コミュニケーションスキルです。

当学園は、教科の他に個別にソーシャルスキルトレーニングの指導をしています。約4年前の学校スタート時には、4〜5名のグループをいくつかに分けてソーシャルスキルトレーニングをしていました。やってみて分かったのですが、（発達障がいのある生徒を含め）個性の強い生徒が多い当学園では、グループ制よりも教科と同じく個別の方がソーシャルスキルも入っていきやすかったです。そして個別のソーシャルスキルをしながら、学校生活の中で自然とグループでのソーシャルスキルを学ぶという流れにしました。

その後、生徒によって違いますが半年〜1年くらい、より高いソーシャルスキルトレーニング（ソーシャルスキル大人編）をさせたほうが良いと判断した生徒には、こちら側からアルバイトを勧めます。

アルバイト探しは、学校が間に入ります。はじめは、アルバイト情報誌や当学園から紹介できるアルバイト先を生徒と一緒に探します。ピンとくるアルバイトをいくつかチェックして、その中で順番をつけて、一番やりたい所に電話します。

ここから、実践的な大人のソーシャルスキルトレーニングに入ります。まずは電話での話し方のイロハから始まり、相手から顔が見えなくても笑顔（微笑み）で話す事や、電話口で失礼しますという時にも本当に頭を下げる等すると相手に温かいものが伝わるよ、などのソーシャルスキルの基本を教え教えます。

当学園でのソーシャルスキルの基本中の基本は、笑顔（微笑み）と返事です。聞くと簡単なようです

が、やる（これを習慣にする）のはなかなか難しいのです。しかし、これが身につくと劇的に人間関係が良くなっていきます。当学園の生徒が面接に強いのは、こういうコツがあるからです。これが出来るだけで、たとえ採用枠が1名のところに10人面接に来ても、その採用枠の1名になれるのです。

意外と、こんな簡単なことが出来ていない人が多いのです。そして、面接をクリアして採用になったら、ここでも生徒に言います。「働くようになったら、とにかくこの会社のアルバイトの中で、笑顔と返事、一番を目指してごらん」と。例えば、イヤな仕事を頼まれても、笑顔で良い返事をしてごらん、そして、時給がたとえ750円でも、時給3000円くらいのつもりで一生懸命働いてごらん、と。

気がつけば、その生徒はその会社のアルバイトの中で一番かわいがられ、仕事出来る人間、いわゆる人材から人財になっています。

アルバイトも授業の一環のような位置で見えていますので、アルバイト先で何かあれば学校側が間に入ります。その為に、最初、生徒よりも先に学校側が会社担当者とお話してから、生徒にアルバイトの話を進めています。

過去、何人かの発達障がいと診断された生徒もアルバイトにトライしましたが、皆、こちらの予想以上に成長します。もう発達障がいとは言い難くなった生徒もいます。

ちなみにアルバイトに関しては、生徒の向き不向きはあまり考慮せずトライさせています。卒業後の進路に関しては徹底的にその生徒の向いている仕事を模索しますが、アルバイトではしません。

なぜなら、アルバイトでは向いていないことも体験して欲しいからなのです。自分の向いている方向（仕事）、向いていない方向を体験を通して学んでもらいたいのです。そして、例え向いていない仕事でも一生懸命に取り組む大切さを学んで欲しいのです。そうした体験（学び）の土台があってこそ、卒業後本当に向いている仕事に出会った時に、より感謝できるようになる人間に育っていきます。皆さんの成長を見る私たち（先生たち）も学んでいます。ありがとうございます。

先生だより ～笠松良行先生～

数学担当の笠松良行です。高木先生に『みやざき中央新聞』を紹介されました。月4回発行で、裏表1枚しかありませんが、これは良いことだけを載せる新聞です。このなかに、普通の人の普通でない人生が書かれています。

タクシー運転手をしながら単独世界一周レースで優勝した師匠に弟子入りしたのに、毎日ヨットの上で宴会ばかりだったと懐かしがる冒険家。

『儲けすぎない』をモットーに、小さな居酒屋と小さな田んぼで生計を立て、みんな何をあくせく生きてるのだろうと不思議がるNPO代表。

バイトでギリギリの生活のなか、成功者に話を聞いて人生を変えようと一大決心し、友人のお父さんから始めて一年間で180人に会った後、本を出版した若者。

脳損傷で幼児化した息子を必死に支え、やっと家業で生きていけると思ったら歌手になると言い出して、悩んだ末に思い通りの人生を応援することにした父親など。

学校で購読しているのので、皆さんもご覧になってください。



なんな先生の Mana カードリーディング

☆11月 「フナ」 隠された秘密

自分の中にはたくさんの可能性があります。自分の中で制限をかけることなく、自分の可能性を探っていくことが大切です。そうすることで、必ずあなたの中で光るものが見つかります。

☆12月 「ワア」 移動

自分のいろんな可能性を探るために行くべきところに行くことを示しています。そうすることによって自分の道が見えてきます。

☆ 1月 「ホオポノポノ」 コミュニケーション

自分の思いに正直なコミュニケーションをとることによって、本来の自分に戻されます。飾ることなく偽ることなく自分の思いを素直に出しましょう。

伸楽ひふみ学園がテレビに取り上げられます。
2013年11月9日
(土)の17時より、MROテレビの番組、げんき日記の「みんなの発達障害」の会で伸楽ひふみ学園の生徒たちが登場します。

お時間のある方は是非ご覧になってください。



ひ・と・こ・ま 教室風景



クリスタルボウルの演奏に挑戦！

カフェミーティングは月2回開いています

親の会カフェミーティングを月2回行なっています。前半の土曜日は伸楽ひふみ学園に通うお子さんをお持ちの保護者の方とサポートする仲間が、後半の土曜日は伸楽ひふみ学園に興味のある方やその他の支援団体の方が話し合えるスペースとして開催しています。

今後の予定は 11/2・16、12/7・21、1/18 の10時から12時までの予定です。

体験入学会 実施予定日

西金沢学習支援センターでは、定期的に体験入学を実施しております。

今後も、下記の日程で実施予定です。

平成25年11月16日(土) 13:30~15:00

平成25年12月21日(土) 13:30~15:00

平成25年 1月18日(土) 13:30~15:00

体験入学への参加は、事前の申し込みが必要です。

参加費は無料です。

実施場所につきましてはすべて伸楽ひふみ学園で行います。



今日の作品 ～組立工作・恐竜～